令和4年度　学校評価自己評価表

学校教育目標
気づいて　考えて　やってみる！
―　自分を大切に　人を大切に　力を合わせて　―

めざす子供像
- ○　チャレンジする子
- ○　思いやりのある子
- ○　考え学び合う子

めざす学校像
- ○　子供が主役の学校
- ○　出会いと感動のある学校
- ○　地域と共に歩む学校

めざす教職員像
- ○　確かな授業力を持つ教職員
- ○　豊かな人間性を持つ教職員
- ○　愛情と使命感に満ちた教職員

分かる喜びを味わい、確かな学力を身に付けた「自ら学ぶ学習者」の育成

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための計画	評価指標（評価方法）	担当	目標値	自己評価(最終) 達成度	自己評価(最終) 評価	来年度に向けて	評価(適切かどうか) ○適切	△まあまあ	×不適切	学校関係者評価 コメント
知	教科等での学びを充実させ、生きる力の基礎となる学力を身に付けた児童を育成する。	○基礎基本の学力の定着を図る。	・協調学習（授業改善）、基礎学力、探究学習、特別支援教育、学習環境（図書館）の５つのプロジェクトチームでアイデアを出し合い、「探究的な学びで育てる「自ら学ぶ学習者」の育成に向けた具体的取組をトライ＆エラーしながらバージョンアップ図る。 ・月１回以上、プロジェクトチームとして集まる機会を設ける。 ・職員室付近にプロジェクトチームコーナーを作り、現在の取組み内容を視覚化させる。	○単元末テストにおいて、正答率80%以上の点数をとれる児童の割合。	教務部	80%	・単元末テストにおいて、正答率80%以上の点数をとれる児童の割合は、１学期が69.5%、2学期が73%となり3.5%上がった。 ・プロジェクトチームを月１回行い、それぞれが行っていることを視覚化するとともに、随時交流することができた。	91%	A	・今後の指導改善方策について、２学期の単元末テストの結果をもとに、低・中・高学年部会で見直しを行った。自主的な学習が進められるようにタブレットを効果的に活用したり、自分たちで学習を進める「マイプラン学習」などを取り入れていく。 ・プロジェクトチームも２年目となり、「のびのびコーナー」や「季節のおすすめの本コーナー」などを整備した。来年度は、さらに取組の充実を図りたい。	○適切 7名			・授業改善によって、学力向上をはかっていく方向性に賛同する。協調学習・マイプラン学習・パワーアップタイムの質的向上に励んでいただきたい。 ・全国学力テストの結果が平均以下だった。しかし「加計小では、こういう力をめざしている」というものをすえて、力がついていることを伝えていってほしい。地域も負けずに続けながら子どもたちを支援していきたい。 ・児童一人一人のやる気スイッチを探し出すような方法を実施されており、よいと思う。全国学力調査の方へも力を入れて学力向上につなげてほしい。
徳	自他を尊重する豊かな人権感覚を持った児童を育成する。	○自己指導能力の育成を図るとともに、思いやりの心を育てる。	・「あいさつ・返事、はきものそろえ、無言掃除、黙動、時間」について、「加計っ子五つの約束」とし、掃除に重点を置いて取り組み、学校を大事にする喜びや充実感を持たせる。	児童・教師アンケートにおいて、掃除に関する項目に、肯定的評価の割合	生徒指導部	80%	・「見つけそうじ」「がまんそうじ」「しんせつそうじ」の3要素で指導に当たった。特に「がまんそうじ」が学校風土として根付いてきた。 ・児童アンケート実施したところ、肯定的評価は83.3%となり、中間と比べて３%上がった。 ・児童や職員のふり返り、児童会活動との関連付けた取組ができなかったことが課題である。	104%	A	・来年度に向けて児童会の組織づくりとして、児童会役員選挙に重点をあげて取り組んだ。自分達の学校をよくしていこうとするの意欲を高めることができた。来年度は、美化委員を中心とした清掃活動の啓発を推し進めたい。 ・職員間の意識統一のために、指導事項のチェックリストを用意し、指導のゴールイメージを共有する取組を行いたい。 ・来年度は「はきものそろえ」「気持ちの良い挨拶」ができるように児童会活動を中心とした取組を考えていく。	○適切 7名			・地域での声かけや挨拶で子ども達と地域とののつながりを深めていきたい。 ・継続して取り組んできたマーチング。社会に出るためのコミュニケーションかなど、しっかりと取り組んでいる点がよい。
体	健康・安全への知識と意識を持ち、自らの生活をよりよくする実行力のある児童を育成する。	○体力の向上を図り、心と体を整える。	・体育的行事前に個人目標を設定し、意欲づけを行う。 ・走力テスト（50m走、シャトルラン）、体力テストの実施 ・体育の授業等の充実（アクティブ・チャイルド・プログラムの活用）	○体育的行事で立てる個人の目標を達成した児童の割合 ☆中間：走力テストの比較 ☆最終：マラソン大会 ※アクティブ・チャイルド・プログラムの実施を80%(参考値)	保健体育指導部	75%	・マラソン大会において、個人目標を達成し、試走よりタイムが良くなった児童の割合は71.1%であった。 ・なわとびは個人で目標を設定し、4週間練習を行った。目標を達成できた児童は71.1%であった。 ・全ての学年で、アクティブ・チャイルド・プログラムをもとにした運動を週１回以上実施できた。アクティブ・チャイルド・プログラムの効果については、検証していく必要がある。	95%	A	・マラソンは、今年度コースや距離を変更して行った。コースの変更や、取組期間が短かったことで、児童が自分にあった目標が立てにくく、目標を達成することが難しかった。 ・縄跳びは、各学年の目標や発表の場を設けて取り組みを実施すれば良かった。取組の見える化を図ることで、練習に向かう姿勢も変わり、個人目標を達成できた児童の割合が増えたのではないかと考える。 ・来年度は取組の見える化と、見通しをもった計画を立てて成果アップをめざしていきたい。	○適切 6名	△まあまあ １名		・体力向上について、バス通学の児童についても運動量が確保できるように工夫をしてほしい。陸上記録会やマラソン大会など、個人目標を立ててしっかり取り組んでほしい。 ・全国的に児童の体力低下が心配されている。ゲームやＹｏｕＴｕｂｅもいいけれど、体を動かすことが楽しいと感じられるような学校生活（体育の時間等）を送ってほしい。
信頼される学校	地域とつながり、教育実践を通して信頼される学校を構築する。	○教職員一人一人が学校運営への参画意識を持つ。	・学校評価や研究推進について分掌とプロジェクトチームで行うことにより、１つの目標に向かって教職員のアイディアが実行できるようにする。また、組織の再編や取組の重点化を図る。 ・人材育成を意識して経験年数に応じた役割分担を行い、業務内容や進捗状況把握、仕事の優先順位や軽重などの助言や評価を管理職が積極的に行う。 ・時間外勤務を原則月４５時間以内に収められるように取組を行う。（定時一斉退庁日、早帰りday）また、持ち帰り業務の削減に向け、見通しをもって仕事が行えるように、ゆとりをもった計画を立てる。	加計小学校版働き方改革アンケートの「経営目標の達成に向けた取組の立案に全ての者が参加している」「管理職はこれまでの慣例にとらわれない新しいアイデアについても積極的に支援している」の項目における肯定的評価の割合。	総務部	90%	・加計小学校版働き方改革アンケート「学校運営への参画意識」の2項目において、肯定的評価の割合のが93.0%であった。 ・保護者アンケート「信頼される学校」に関する3項目において、肯定的評価の割合が96.7%であった。 ・時間外勤務を月４５時間以内に納めることができた割合は84.7%であった。	103%	A	・プロジェクトチームの取組では、立場を超えて教職員全員がチームに所属し主体的に取組を進めた。教職員のやりがいの向上や組織の一員としての自覚が高まった。来年度に向けて組織の再編や取組の重点化を図る。 ・授業においては、支援の必要な児童に対してチームで指導にあたったり、児童会活動・学校行事等では、同僚の仕事を手伝うなど、教職員の横のつながりができた。アンケートの結果から、教職員の「やりがいを感じている」と「信頼する同僚がいる」との相関性が高いことから、学年部会・分掌部会等を組織的に機能させ、同僚性を高めていく。 ・「教職員の元気が、子ども達の笑顔につながる」ことから、家庭と学校の連携協力の重要性や、学校の働き方改革への協力が得られるように総会・説明会等で説明していく。学びポケット等の活用で、保護者への連絡や相談には、早く丁寧に対応していく。	○適切 7名			・学校教育目標、基礎基本の学力の定着を図ることについて、地域でも少しでも環境を整えていきたい。地域の行事では、小さな子供にも参加してもらえるように声かけをしていく。学校任せではなく、子どもは大人の姿を見て育っていることを改めて考えさせられた。 ・家庭と学校との連携をしっかり図っていくことで、子ども達にもよい影響が出ると思います。期待します。

評価基準		
	A	達成率が９０%以上
	B	達成率が８０%以上９０%未満
	C	達成率が６０%以上８０%未満
	D	達成率が６０%未満